

学会誌と機関リポジトリの協同: 大学図書館による出版の再生

村上祐子(東北大学理学研究科)・
神崎宣次(京都大学文学研究科)・
大西賢人(京都大学附属図書館)

大学図書館に対するメッセージ

- 学会ニーズはどこにあるのか
- 機関リポジトリからみたメリット
- 図書館と学会の連携の将来像

学協会について補足

- | | |
|---|--|
| <p>大学会 普通SPARC Japan
にいる学会</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会員数: 数万人～ • 企業: スポンサー・企業研究者も会員 • 法人格: 財団・社団・NPO等 • 資格認定したりもする • 高校生・一般などアウトリーチにも配慮 • 専任職員 | <p>中小学会 普通の人文系学会</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会員数: 数十人～数千人 • ほぼ大学関係者、企業会員はほとんどいない • 学会役員・大学院生が事務兼任(ほとんど無償) • 任意団体 <ul style="list-style-type: none"> – 日本学術会議認定を受けていないケースも少なくない • 学会連合による協同 <ul style="list-style-type: none"> – 日本学術会議は学会連合も認定団体とみなす |
|---|--|

応用哲学会

- 本会は、哲学と他の学問分野にまたがる学際的研究、現代社会の諸課題に深く関わる研究を中心にすえつつ、それらの研究活動を支える現代哲学の基礎的な研究をも包摂する、広義の応用哲学の確立と発展を目指す。

大会の様様

- ○応用哲学会 第一回研究大会 - 京都大学
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news4/2009/090426_1.htm
- 公開シンポジウム「これが応用哲学だ！」講演ビデオ - 京都大学OCW
http://ocw.kyoto-u.ac.jp/opencourse-1/copy_of_04/090426-10

応用哲学会設立の経緯

- 発足準備委員会
- 設立集会 2008年9月7日(日) 名古屋
- 大会:
 - 第1回大会: 2009年4月25日(土)26日(日) 京都
 - 第2回大会: 2010年4月24日(土)25日(日) 札幌
 - 第3回大会(予定): 2011年4月23日(土)24日(日) 千葉

学会運営の基本方針

- 既存学会運営への反省を踏まえて
- 役員：理事・監事
 - 定年制
 - 学生会員枠理事
 - 任期更新制限
- 学会解散手続明記
- オンラインサービス重視
 - 国際性、オープンアクセス

学会運営の実務から
徒弟制を排除

情報倫理関係者が設
立準備時から「OA当
然」を提唱、他の選択
肢はなかった

学会解散手続

解散

第二十条

本会の解散には、理事の過半数ないしは、特別会員を除く会員の十分の一以上の提案により、第十五条第3項にかかわらず、総会出席会員の三分の二以上の賛成を得なければならない。

編集委員会

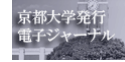
- 編集委員長
 - 学生会員を編集委員に必ず含む
- 査読依頼・管理のOJSによる支援

現行投稿規程から

12. 著作権

当会誌掲載論文の著作権は著者に帰属しますが、著者は当学会に対し包括的に当該論文の利用を許諾するものとします。したがって、著者の意思に基づき自由に二次利用が可能ですが、初出の掲載URLを含む書誌事項を表示していただくようお願いいたします。また著者はあらかじめ、著者が被相続者となった場合に当学会に当該論文の著作権を贈与することとします。

下地



- 京都大学発行電子ジャーナル (E-Journals published by Kyoto University on KURENAI)
- 現在約90誌以上の京大発行の学術雑誌を提供
- 哲学研究室では以下2誌をリポジトリへ
 - 哲学論叢(電子化2007-)
 - Prospectus(電子化2008-)
- 倫理学研究室はもともと情報倫理プロジェクトに関わり、著作権関係にも一家言あり
- 科学哲学科学史研究室も紀要をリポジトリ(電子化2008-)

哲学研究室側のページ

哲学論叢

新着情報

・京都大学学術情報リポジトリへリンクしました。『哲学論叢』第35号までをご覧ください。各号のリポジトリへのリンクをクリックしてください。

・お知らせ!! 哲学・近世哲学史研究室に掲載されていない方もご投稿いただけるように、論叢刊行金の規約を改訂いたしました。詳しくはこちらをご覧ください。

巻号一覧

IX(1973)	X(1975)	XI(1976)	XII(1977)	XIII(1978)	XIV(1979)
XV(1980)	XVI(1981)	XVII(1982)	XVIII(1983)	XIX(1984)	XX(1985)
XXI(1986)	XXII(1987)	XXIII(1988)	XXIV(1989)	XXV(1990)	XXVI(1991)
XXVII(1992)	XXVIII(1993)	XXIX(1994)	XXX(1995)	XXXI(1996)	XXXII(1997)
XXXIII(1998)	XXXIV(1999)	XXXV(2000)	XXXVI(2001)	XXXVII(2002)	XXXVIII(2003)
XXXIX(2004)	XXX(2005)	XXXIII(2006)	XXXIV(2007)	XXXV(2008)	

※入手ご希望の方は下記までお問い合わせ下さい(一部1,050円。品切れの場合はご容赦下さい)。

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科哲学研究室内 哲学論叢刊行会
TEL: 075-753-2754 MAIL: tetsugaku.ronso@gmail.com

この下に目次が続く

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/phil/ronso.htm>

哲学研究室側のページ



top

prospectus online

about

本サイトは、京都大学文学研究科哲学教室が発行する紀要『PROSPECTUS』のオンライン版です。
『PROSPECTUS』に収録されている論文をWeb上でご覧いただけます。

content

What's new

link

2008.01. Nb.10(特集:人工生命)をアップしました。

2007.01. Nb.9(特集:サイボーグ)をアップしました。

mail

2007.01. Nb.6(2008年)の情報をアップしました

Copyright (c) 2005 Kyoto Univ. All Rights Reserved.

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/phil/prospectus/index.html>

科学哲学科学史研究室側のページ

Philosophy and History of Science, Kyoto University
京都大学大学院文学研究科 科学哲学科学史研究室

- トップページ
- 研究紹介
- 研究情報
- 科学哲学科学史研究
 - 教員
 - 院生
 - コンタクト
 - リンク
 - アーカイブ
 - 更新履歴
 - サイトマップ
 - English
- 文学研究科HP
- 京都大学HP

【科学哲学科学史研究】
京都大学文学部科学哲学科学史研究室では、雑誌『科学哲学科学史研究』を発行しています。
掲載論文は[京都大学学術情報リポジトリ](#)で閲覧することができます

第3号 2009年

一般論文

田中康史・中塚央
「道徳と言語のアナロジー—脱形質統計—感情説との比較を通じて—」

中塚央
「心のモジュール説の新展開—その分析と二重継承説との両立可能性—」

サーベイ論文

有賀精道
「活力論争とは何だったのか」

佐野精彦
「群相論理へのホモフォニック真理論」

リポジトリだけではできなかったこと

- 研究室サイトで「電子ジャーナル」を装うことも可能だったはず（オーバーレイ・ジャーナル）だがしなかった

オーバーレイジャーナル「公共研究」

「持続可能な福祉社会」(Sustainable Welfare Society)の実現を研究の中心テーマとする教育研究拠点を目指しています。

21世紀
COEプログラム
持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点
Research Center on Public Affairs for Sustainable Welfare Society

中文 English

プログラムの概要
本プログラムの趣旨
拠点リーダーから挨拶
21COEについて
事業紹介と推進メンバー
推進メンバー
公共政策
公共哲学
国際公共比較
シンポジウム・セミナー
最新スケジュール
対話研究会
最新スケジュール
刊行物
季刊「公共研究」
「公共研究」叢書
国際ジャーナル
公共研究センター
メンバー紹介

季刊「公共研究」

2010年3月号 第1巻 第2号
公共研究

21世紀 公共政策センター
〒100-8302 東京都千代田区千代田1-10-1
TEL:03-5561-3111 FAX:03-5561-3112
E-MAIL:public@rcpa.kyushu-u.ac.jp

学会サイドから見て気になる点

- 学会事務局の移転可能性
 - 規約に事務局の2年ごとの移転
- 業務切分：インフラは自前では持てない
- 電子ファイルの閲覧可能性と将来的な可読性の確保：必要ならファイル形式変更検討
- 電子のみジャーナル
 - サービス向上
 - 論文字数制限の大幅緩和
 - 柔軟な投稿時期・出版時期
 - 品質保証

経費削減と徒弟制廃止

- 神崎「電子出版のメリットの一つは経費削減にあるが、学会運営全体を考えた場合、単に削減すればよいのではなく、これまで学生が影で無給でやってた仕事を学会として認識し、きちんと対価を支払うことの方が重要。」
 - 実際には無給から「若干の謝金」へ
 - 発送作業はなくなったが、事務局の会員管理負担・編集委員会の査読負担は原理的に減らない

図書館サイドの背景：2007年秋

京都大学に関係のある学会誌等のリポジトリへの電子化・登録を働きかけをおこないたい
→リポジトリ発信電子ジャーナルとしてアピールができる

紙で先に出来上がった紀要類を後でPDFでもらうというスタイルではなく、もともと電子で作成発行（現在の大手の電子ジャーナル出版と同じ手法）それをプラットフォームとして支える、というスタイルを取ることによって、リポジトリは保存庫としてだけでなく、より深く出版プロセスに関与できることになる

ちょうど早稲田大学ではOJSを実験していた。日本語化も。学内紀要の図書館による電子出版を狙っていた。

<http://www.wul.waseda.ac.jp/ir/epubs/>

京大図書館の記事

The screenshot shows the Kyoto University Library website. At the top, there is a navigation bar with links for HOME, 資料検索, 学富/研究サポート, 特許/クリエイション, サービス, 図書館 全一覧, and 図書館について. A search bar is located on the right. Below the navigation bar, there is a section titled "2010年3月11日(木曜日) 応用哲学会の電子ジャーナル"Contemporary and Applied Philosophy"を創刊". The article text mentions that the journal was launched on the KURENAI platform. Below the article, there is a list of "KURENAI update" items, including the launch of the journal and other library-related news. A small thumbnail image of the journal cover is also visible.

神崎インタビュー

Q: 応用哲学会について教えてください。

A: 応用哲学会は2008年9月に設立された若い学会です。工学や環境科学や医学や社会科学などの他領域の研究者や実務家と哲学研究者との間での協働的な研究の場をつくる、というのが設立の目的です。今のところ会員数は200人に少し足りないというところです。関心を持っていた方は学会のサイト <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jacap/index.html> をご覧ください。

神崎インタビュー

• Q: "Contemporary and Applied Philosophy"について教えてください。

A: Contemporary and Applied Philosophy (以下CAP, <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jacap/index.html>) は応用哲学会の学会誌です。最初から電子ジャーナルとして企画され、紙媒体では発行されていません。この雑誌では常時投稿を受けつけており、投稿された論文はすぐに査読に回されます。査読を通った論文は編集作業が終了したもののから順次公開されます。ですのでCAPは年に一号なのですが、各号に掲載される論文の掲載日はそれぞれ異なるので、個々の論文にそれぞれの掲載日を記載しています。とにかくいい論文が書けたらいつでも送ってきてというのが、この雑誌の一番基本的なスタンスと言ってもいいと思います。

神崎インタビュー

- Q: 今回、OJSを使ってジャーナルを創刊されたねらいは何でしょうか？

A: 発刊に合わせて投稿期間を限定する必要がないこと以外にも、電子ジャーナルの利点はいくつかあります。文字通り紙幅というものが存在しないので論文の字数制限を大幅に緩和できますし、印刷や配布にかかる経費を削減することによって会員が支払う学会費を下げることもできます。また、特別号や特集号などを出すのも比較的容易だという点も、学会として活発に活動していくためには利点となるでしょう。これらは電子ジャーナル一般の利点ですがそれとは別にOJS固有の長所として、1) 編集者と投稿者あるいは査読者との間のメールでの連絡が記録される、2) 査読者に対するリマインダ機能、3) 論文の採択率や登録読者数などについての統計機能、4) 各論文はPDF等の普通のファイルとして公開されるので、いざという場合には他のシステムへの移行が可能、などを挙げることができます。

神崎インタビュー

ただ、応用哲学会として採用したのはOJS単独というよりも、実際には「京大図書館のインフラ+OJS」です。学会の設立準備をしている段階で図書館からOJSで学会誌を出さないかという御提案があり、データのバックアップ体制などについても説明していただきました。京大図書館から提供していただいている品質のネット回線やバックアップ体制は、われわれの学会の財政規模では自前で用意できません。掲載された論文へのアクセスと論文データの保存を高い品質で保証することは、学会が会員および公共に対して提供すべき基本的なサービスの一つだと思います。京大図書館がホスティングするOJSシステムを採用することによってそのサービスが可能になるというのが、私を含めた応用哲学会設立準備委員会の判断だったわけです。

図書館サイドの広報

- 京都大学図書館機構では、KURENAI事業の一環として、ジャーナル出版を支援しています。新しい学術雑誌を電子ジャーナルで発行したい、現在冊子体で発行している学術雑誌をオンラインで編集したい、という学内学会/研究室等がありましたら、附属図書館電子情報掛までご連絡ください。

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/kurir/contact.html>

最新刊: 第2巻

Contemporary and Applied Philosophy	
ホーム > 2巻 (2010-2011)	言語 <input type="text" value="日本語"/>
Contemporary and Applied Philosophy	
2巻 (2010-2011)	
目次	
研究論文(原著論文)	
人間行動生態学における最適化モデル Nakao, Hisashi	巻目 PDF 1
A Neo-Socratic Dialogue for Developing a Mutual Understanding of Rights and Responsibilities in the Healthcare System AIZAWA, Kuniko, ASAI, Atsushi, KOBAYASHI, Yasunori, HOSHIKO, Kuniko, RITTO, Seiji	巻目 PDF 10001
Descriptivism with World Pronouns IZUMI, Yu	巻目 PDF 10017
書評	
反轉軸主観性であるとはどのようなことか 式部, 康史, 山崎, 博	巻目 PDF PDF 1001
ISSN 1082-4329	

現在の学会サイドの問題

- 品質保証
- 学会ホームページをどこに置くか
- サービス強化: 誰がいつどこで? 財源?
 - 学会コモンズ構想
 - Facebook/mixi?
 - セミナー等のtwitter中継